

《最近の県内経済》 (2026年3月を中心として)

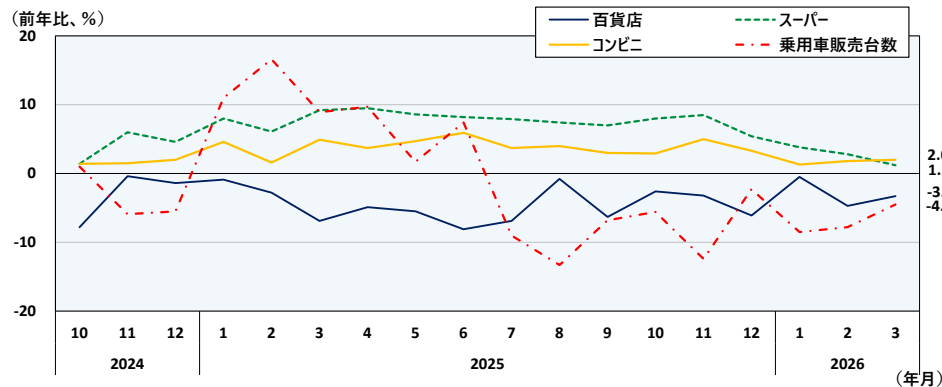
今月の概要

中東情勢の影響から先行きは不透明ながら、
足許は緩やかに回復している



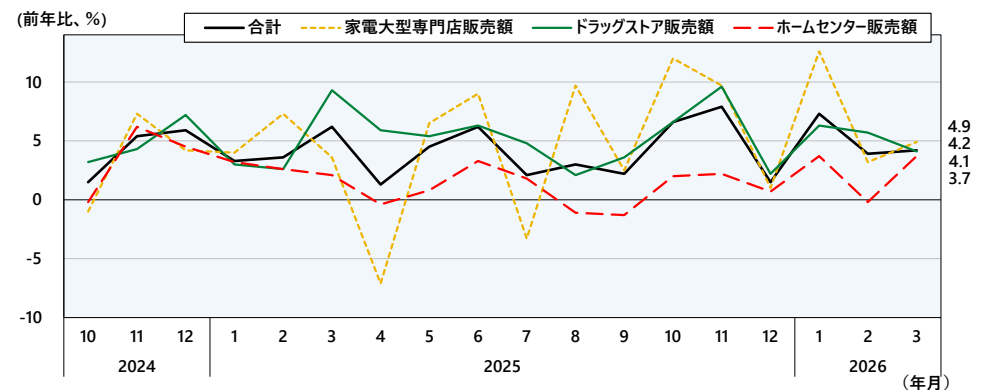
1 個人消費 ~緩やかに持ち直している ⇨

百貨店/スーパー/コンビニ販売額、乗用車販売台数【前年比】



(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

専門量販店販売額【前年比】



(資料) 経済産業省

個人消費は、緩やかに持ち直している。

3月の百貨店およびスーパーの販売額(店舗調整前)は、百貨店は130億円で前年比3.3%減(21か月連続の減少)、スーパーは1,194億円で同1.2%増加(42か月連続の増加)した。また、コンビニ販売は607億円で同2.0%増加(23か月連続の増加)した。物価高による節約志向が見られるものの、単価上昇による押し上げ効果が続いている。

また、乗用車販売は、前年比4.5%減と9か月連続で減少した。内訳をみると、普通車が同14.2%減(9か月連続の減少)、小型車が同8.4%減(3か月連続の減少)、軽自動車と同13.6%増(2か月連続の増加)となった。軽自動車は新型車効果などで増加したものの、普通車と小型車は一部車種での供給制限などにより減少した。

3月の専門量販店販売額は928億円で前年比4.2%増と42か月連続で増加した。内訳をみると、家電大型専門店が236億円で同4.9%増(8か月連続の増加)、ドラッグストアが493億円で同4.1%増(46か月連続の増加)、ホームセンターが200億円で同3.7%増(2か月ぶりの増加)となった。

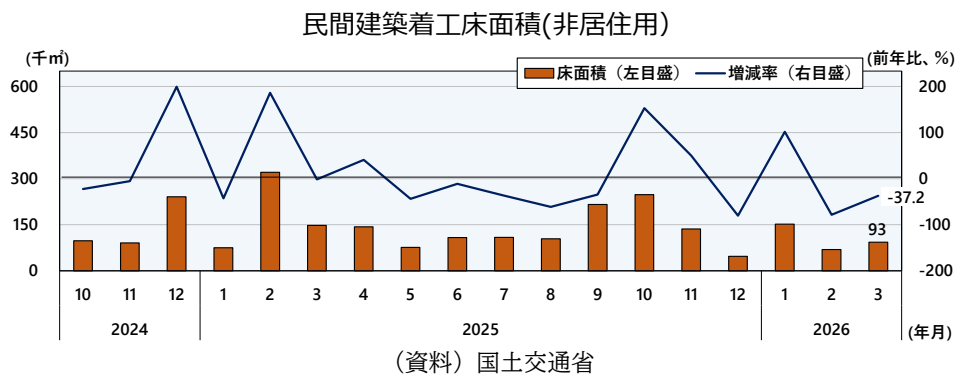
家電大型専門店では、引き続きエアコンや携帯電話が好調に推移した。

ドラッグストアでは、化粧品ほか幅広い品目が増加した。

ホームセンターでは、園芸用品、農業資材の販売が好調だった。

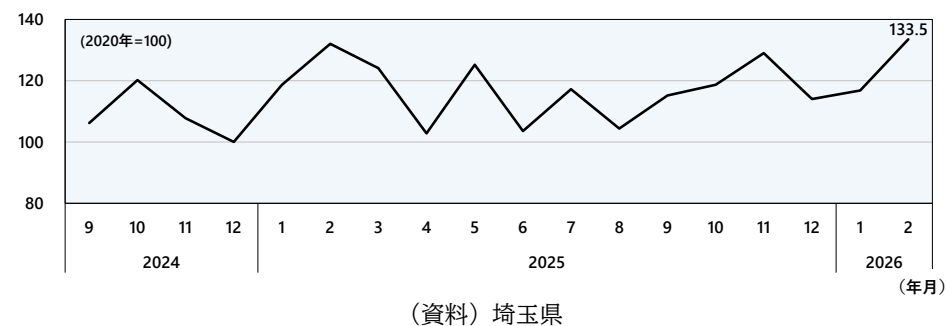
関東1都6県の消費者態度指数(原数値)は、2月<39.8>、3月<34.0>、4月<32.6>と推移している。

2 設備投資 ~増加基調にある ➡



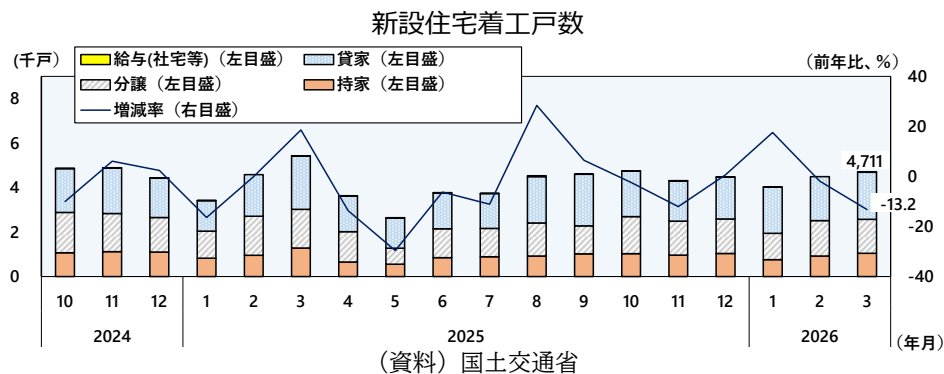
3月の民間建築着工床面積(非居住用)は、93千㎡で前年比37.2%減少した(5か月後方移動平均でも、前年比43.3%減少)。用途別にみると、事務所、学校の校舎、病院・診療所は増加したものの、店舗、工場及び作業場、倉庫は減少した。

資本財出荷指数(季節調整済)



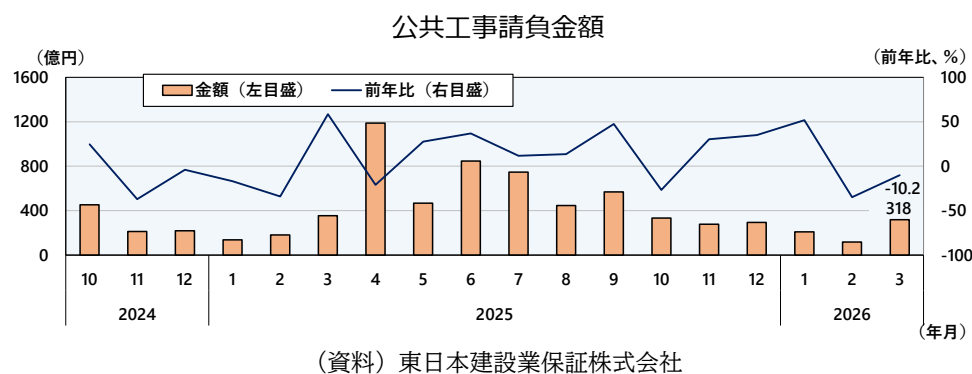
2月の資本財出荷指数(季節調整済)は133.5で、前月比14.3%増加した(5か月後方移動平均では、122.4で、前年比5.8%増加)。

3 住宅建設 ~弱含んでいる ➡



3月の新設住宅着工戸数は、4,711戸で前年比13.2%減少した(5か月後方移動平均でも、4,401戸、前年比3.3%減)。利用関係別にみると、分譲マンション(444戸)が同10.4%増となったものの、持家(1,045戸)が同18.5%減、貸家(2,110戸)が同12.1%減、分譲一戸建て(1,080戸)が同18.4%減となった。

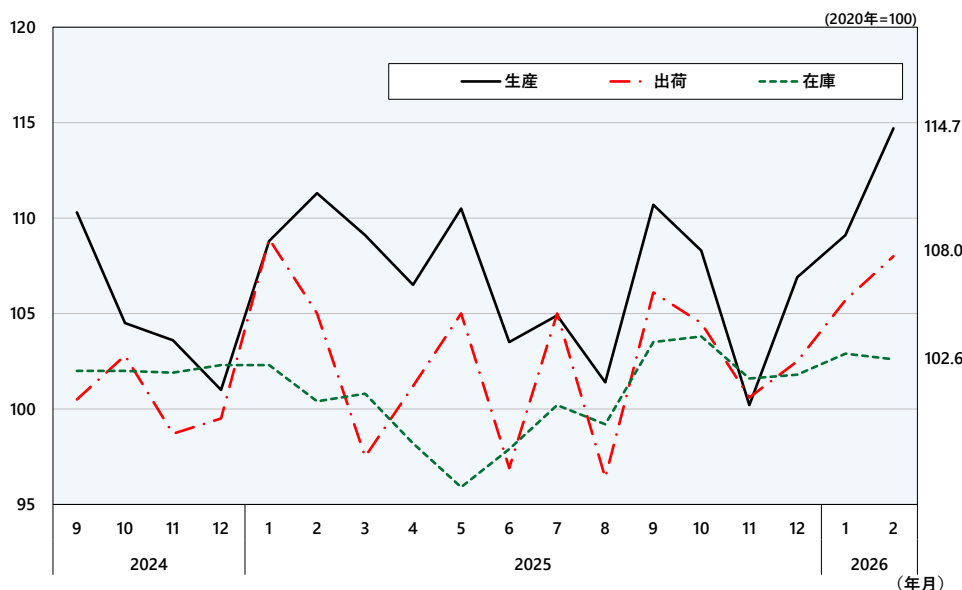
4 公共工事 ~底堅く推移している ➡



3月の公共工事請負額は318億円、前年比10.2%減少した。5か月後方移動平均では、244億円、前年比10.2%増で推移。発注者別の前年比をみると、国、独立行政法人等は増加したものの、都道府県、市区町村は減少した。

5 生産活動 ~底堅く推移している →

鉱工業生産・出荷・在庫指数(季節調整済)



(資料) 埼玉県

2月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、114.7で前月比5.1%上昇(3か月連続の上昇)した。

汎用機械(コンベヤ、空気圧機器)、食料品(粉乳、めん類)などが低下したが、輸送機械(航空機用部品、乗用車)、生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、包装・荷造機械)などが上昇した。

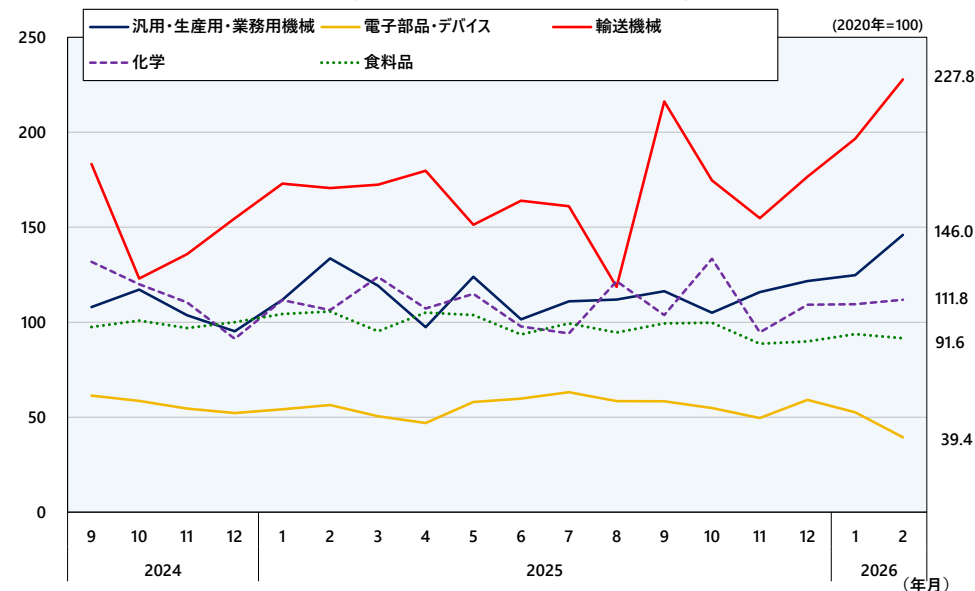
出荷指数(同)は、108.0で同2.2%上昇(3か月連続の上昇)した。

食料品(粉乳、めん類)、汎用機械(空気圧機器、コンベヤ)などが低下したが、生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、マシニングセンタ)、情報通信機械(ガス警報器、金銭登録機(端末機能付))などが上昇した。

在庫指数(同)は、102.6で同0.3%低下(3か月ぶりの低下)した。

生産用機械(整地機械、マシニングセンタ)、非鉄金属(伸銅製品、アルミニウム二次合金)などが上昇したが、情報通信機械(ガス警報器)、窯業・土石製品(セメント、コンクリート系パネル)などが低下した。

主要業種の生産指数(季節調整済)



(資料) 埼玉県

汎用・生産用・業務用機械の生産指数(季節調整済)は、146.0で前月比17.0%上昇し、4か月連続の上昇となった。

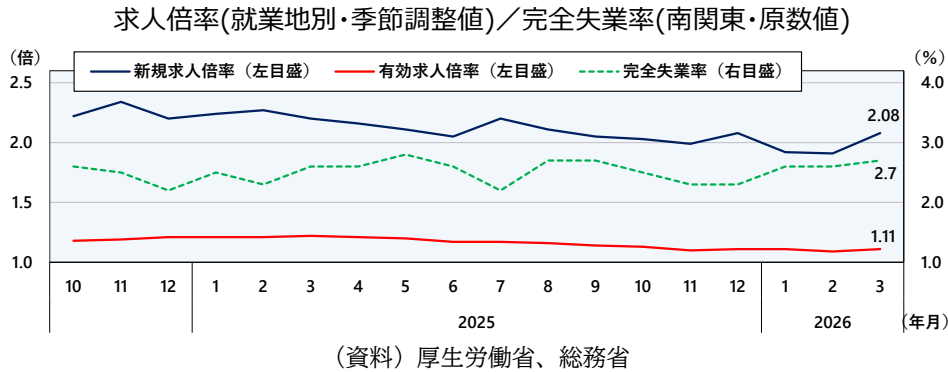
電子部品・デバイス(同)は、39.4で同25.1%下降し、2か月連続の下降となった。

輸送機械(同)は、227.8で同15.9%上昇し、3か月連続の上昇となった。

化学(同)は、111.8で同2.1%上昇し、3か月連続の上昇となった。

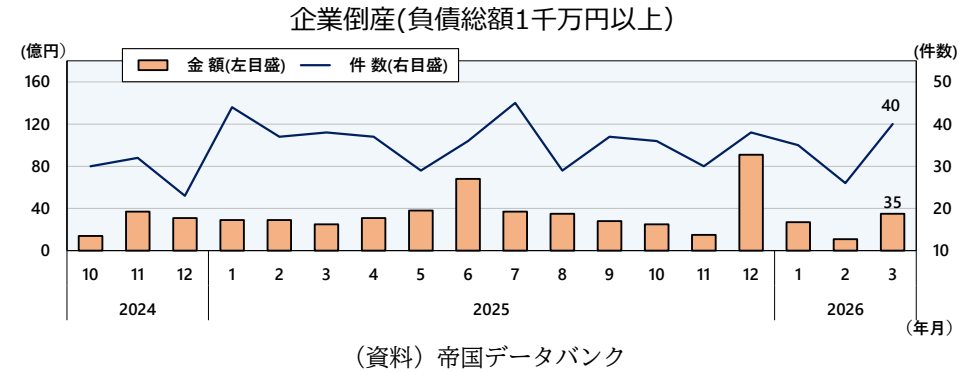
食料品(同)は、91.6で同2.2%下降し、3か月ぶりの下降となった。

6 雇用情勢 ~緩やかに持ち直している ➡



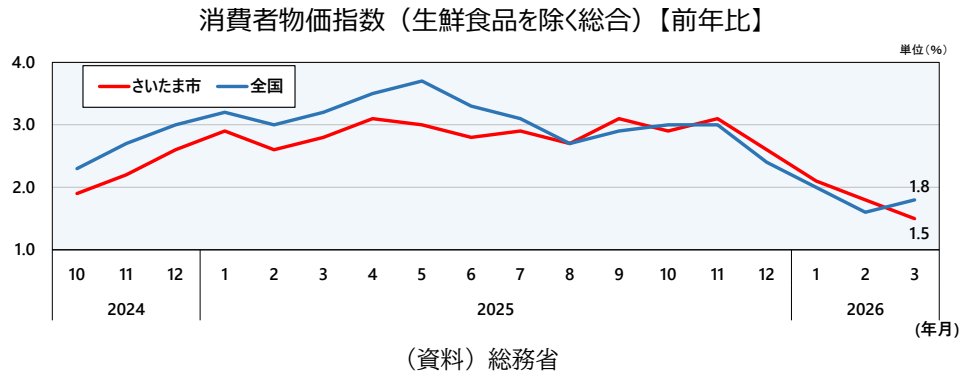
3月の有効求人倍率(就業地別、季節調整値)は、1.11倍で前月比0.02^割上昇した。新規求人倍率(同)は、2.08倍で同比0.17^割上昇した。
また、完全失業率(南関東、原数値)は、2.7%で前年同月比0.1^割上昇した(前年同月比4か月連続の上昇)。

7 企業倒産 ~緩やかな増加基調にある ➡



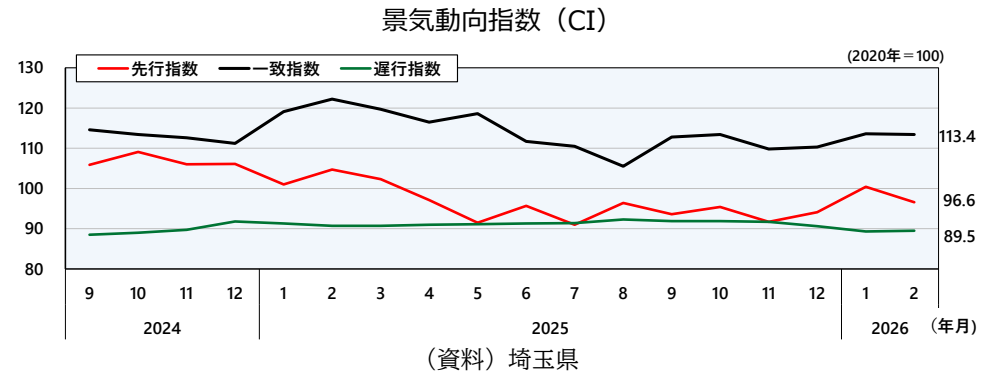
3月の企業倒産件数は40件で前年同月比2件増加した。また、負債総額は35億円で同比10億円増加した(5か月後方移動平均では、件数は前年比1件減少、負債総額は6億円増加)。
業種別にみると、建設業が最多で13件、次いで製造業が11件、サービス業が10件となっている。主因別では、販売不振が32件となっている。

8 消費者物価 ~緩やかに上昇している ➡



3月の消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は、110.7で前年同月比1.5%上昇した(54か月連続の前年同月上昇)。
食料(菓子類(チョコレートなど))、交通・通信(自動車等関係費(自動車整備費(パンク修理)など))などが上昇し、全体を押し上げている。

〈参考〉景気動向指数(CI) ~下方への局面変化を示している



- 2月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、113.4で前月比0.2^割下降し、3か月ぶりの下降となった。
- CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、96.6で同3.8^割下降し、3か月ぶりの下降となった。
- CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、89.5で同0.2^割上昇し、6か月ぶりの上昇となった。